<様式2>

2026年度　施策評価シート（2025年度実績）

1 評価施策名

担当部課室	医療政策課

重点戦略	Ⅳ 安心で豊かさが実感できる地域の創造
戦略プログラム	保健医療充実プログラム
施策名	【重点】地域医療を支える医療従事者の育成・確保

2 生き活き指標（推進施策の指標）の進捗（達成）状況

指標名	県内の医師不足地域の医療機関に勤務する地域枠卒業医師数	年度	2025	2026	2027	2028
		目標値	28	29	29	31
現況値	24人	実績値	30			
目標値	31人	達成率（%）	107.1			
備考		達成度	4			

3 関連する事業名

・医学部地域枠医師養成緊急確保事業
・看護師等就労促進事業
・中山間地域における看護職員確保推進の体制整備事業

4 施策達成レベル

4.0	生き活き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して 施策達成レベルを算出

5 施策推進による主な成果

・将来、医師不足地域で勤務する医師を確保するため、岡山大学医学部医学科地域枠コース入学者4名に対して奨学資金を貸与した。
・地域医療支援センターによるキャリア形成支援や岡山大学に設置した寄附講座を通じて、地域医療マインドを持った医師を養成するとともに、地域医療支援センターによる地域枠卒業医師の配置を希望する病院と地域枠卒業医師のマッチングなどを行い、2025年度は30人の地域枠卒業医師が医師不足地域の医療機関で勤務することとなった。
・中高校生を対象としたガイドブックの作成やキャリアアップ研修等を実施し、看護師等の確保に取り組んだ。
・中山間地域の看護師等を確保するため、高校生や看護学生等を対象とした交流会や出前講座等を開催するとともに、専門性の高い看護職員確保のための相談・支援体制を整備した。

6 今後の施策推進に向けての課題

・今後とも、県内の医師不足の状況等の把握を行い、医師の地域偏在の是正に取り組む必要がある。
・地域枠卒業医師が医師不足地域での勤務に意欲ややりがいを持てるよう、大学、医療機関などと連携しながらキャリア形成支援に努めるとともに、義務年限終了後の地域定着促進にも取り組んでいく必要がある。
・看護師等を計画的に確保するため、若年層も含めた看護の魅力の普及啓発に取り組むとともに、多様な医療ニーズに対応できるよう看護師等の資質向上に向けた研修等に取り組む必要がある。
・中山間地域の医療体制を維持するため、遠隔医療やタスクシフト／シェアを推進するための専門性の高い看護師等の確保にも取り組んでいく必要がある。

＜様式2＞

2026年度　施策評価シート（2025年度実績）

1 評価施策名

担当部課室	地域医療推進課

重点戦略	Ⅳ 安心で豊かさが実感できる地域の創造
戦略プログラム	保健医療充実プログラム
施策名	【重点】人口減少・高齢化に対応した医療提供体制の整備

2 生き活き指標（推進施策の指標）の進捗（達成）状況

指標名	病院（精神科病院を除く）・内科診療所のうち在宅療養支援病院・診療所の数の割合	年度	2025	2026	2027	2028
		目標値	33.2	33.7	34.2	34.6
現況値	32.3%	実績値	38.8			
目標値	34.6%	達成率（%）	116.9			
備考		達成度	4			

3 関連する事業名

・医療DXによる地域医療体制強化事業
・医療機能分化・連携促進のための基盤整備事業
・幸福な長寿社会実現事業

4 施策達成レベル

4.0	生き活き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して 施策達成レベルを算出

5 施策推進による主な成果

・県内のどこに住んでいても、安全で質の高い医療を受けられる体制の実現を目指し、医療資源が不足する地域におけるオンライン診療の導入に向けた取組を推進するため、医療DX推進協議会や医療DXシンポジウムを開催し、在宅医療にも活用が期待できるオンライン診療の可能性や必要性について広く周知を行い、医療提供者や行政関係者の理解促進につながった。
・ 県民が住み慣れた地域で、望ましい療養生活ができる社会の実現に向けて、 在宅医療の確保及び連携体制の構築に関する事項について、在宅医療推進協議会を開催し協議することで、各機関が役割を再認識するとともに、関係者間の顔の見える関係の構築につながった。

6 今後の施策推進に向けての課題

・新たな地域医療構想は、入院医療だけではなく、外来医療・在宅医療、介護との連携、人材確保等を含めた地域の医療提供体制全体の構想となることから、市町村が現在行っている在宅医療・介護連携推進事業の取組を活かしながら、医療と介護の連携を進める必要がある。
・アドバンス・ケアプランニングの普及啓発に向けて、リーフレットの配布やDVDの貸与を行っているが、幅広い世代の理解を深めるために情報発信の方法についての工夫が必要である。

<様式2>

2026年度　施策評価シート（2025年度実績）

1 評価施策名

担当部課室	健康推進課

重点戦略	Ⅳ 安心で豊かさが実感できる地域の創造
戦略プログラム	保健医療充実プログラム
施策名	【重点】心と体の健康づくりの推進

2 生き活き指標（推進施策の指標）の進捗（達成）状況

指標名	20歳以上の喫煙率	年度	2025	2026	2027	2028
		目標値	14.3	14.0	13.7	13.4
現況値	14.9%	実績値	14.8			
目標値	13.4%	達成率(%)	96.6			
備考		達成度	3			

指標名	日常生活動作が自立している期間の平均（健康寿命）（男性）	年度	2025	2026	2027	2028
		目標値	80.29	80.34	80.39	80.44
現況値	80.19歳	実績値	79.58			
目標値	80.44歳	達成率(%)	99.1			
備考		達成度	3			

指標名	日常生活動作が自立している期間の平均（健康寿命）（女性）	年度	2025	2026	2027	2028
		目標値	84.56	84.57	84.58	84.59
現況値	84.53歳	実績値	83.77			
目標値	84.59歳	達成率(%)	99.1			
備考		達成度	3			

指標名	健康づくりに取り組んでいる県民の割合	年度	2025	2026	2027	2028
		目標値	80.7	81.3	81.9	82.5
現況値	79.5%	実績値	71.0			
目標値	82.5%	達成率(%)	88.0			
備考		達成度	3			

指標名	子宮頸がんの予防法について正しく知っている県民の割合	年度	2025	2026	2027	2028
		目標値	41.2	42.4	43.6	45.0
現況値	38.8%	実績値	41.0			
目標値	45.0%	達成率(%)	99.5			
備考		達成度	3			

3 関連する事業名

・スモークフリー事業
・糖尿病性腎症重症化予防事業
・健康づくり実践促進事業

4 施策達成レベル

3.0	生き活き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して 施策達成レベルを算出

5 施策推進による主な成果

・喫煙可能年齢前の大学生等を対象に、たばこや受動喫煙の害を伝える講義を実施し、たばこに関する知識を深めてもらうとともに、敷地内全面禁煙実施施設認定制度により受動喫煙を防止する環境づくりを推進した。
・本県の健康寿命の延伸を阻害している要因や、その要因ごとの健康寿命への関与度を、第3次健康おかやま21で設定した健康指標について分析し、結果が得られた。
・市町村が行う保健事業の企画・運営・評価を支援し、保健事業の適正かつ効果的な推進を図ることで、糖尿病の重症化予防に努めた。
・食を通じた健康づくりに取り組んでいることを宣言した飲食店等を「おかやまからだ晴れ食サポーター」として登録した。
・働いている世代の運動習慣定着のため、リーフレットを作成し体を動かす、座っている時間を短くする取組を周知した。

6 今後の施策推進に向けての課題

・20歳以上の者の喫煙率は、長期的には低下傾向にあるが、最近は上昇と低下が繰り返されており、着実に低下しているとは言い難い状況である。また、20代に限ると上昇傾向にあるため、引き続き、若者に対する啓発が必要である。
・健康寿命を延伸するための要因分析により、喫煙割合、塩分摂取量、BMI、血圧に関する健康指標に着目した対策が必要であることが示唆されたことから、効果的な介入方法について検討する必要がある。
・糖尿病予防を推進するため、引き続き、県民に対する普及啓発と関係団体との連携強化に向けた取組を行う必要がある。
・食育推進計画に掲げる「朝食を毎日食べる者の割合100%」を達成するため、朝食の重要性を普及啓発する。また、働く世代の運動習慣定着等自然に健康的な行動がとれる環境づくりを推進する必要がある。

＜様式2＞

2026年度　施策評価シート（2025年度実績）

1 評価施策名

担当部課室	疾病感染症対策課

重点戦略	Ⅳ 安心で豊かさが実感できる地域の創造
戦略プログラム	保健医療充実プログラム
施策名	【重点】感染症対策の強化

2 生き活き指標（推進施策の指標）の進捗（達成）状況

指標名	子宮頸がんの予防法について正しく知っている県民の割合	年度	2025	2026	2027	2028
		目標値	41.2	42.4	43.6	45.0
現況値	38.8%	実績値	41.0			
目標値	45.0%	達成率(%)	99.5			
備考		達成度	3			

指標名	感染症に関する訓練・研修会への参加人数	年度	2025	2026	2027	2028
		目標値	1,750	3,500	5,250	7,000
現況値	1,152人/年	実績値	1,911			
目標値	7,000人	達成率(%)	109.2			
備考	目標値は2025～2028年度の累計	達成度	4			

3 関連する事業名

・感染症予防事業
・AIで変わる子宮頸がん・梅毒予防啓発事業
・岡山県感染症対策ネットワーク構築推進事業

4 施策達成レベル

3.5	生き活き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して 施策達成レベルを算出

5 施策推進による主な成果

・子宮頸がんの予防法に関する正しい知識の普及や、HIVや梅毒等の検査実施及び相談体制の整備、風しん抗体検査助成制度によるワクチン接種の促進、新興感染症等に対応するための訓練・研修会を通じた関係機関との連携強化などにより、感染症対策を着実に実施した。

6 今後の施策推進に向けての課題

・子宮頸がん予防に関する啓発について、AIを活用したSNS等WEB広告等の配信やその結果の分析を行い、より一層正しい知識の普及を図る。
・HIVや梅毒については、感染の早期発見・治療につなげるため、関係機関と連携した啓発や検査機会の拡大を図るなど、まん延を防止する対策に引き続き取り組んでいく必要がある。
・様々な感染症の発生及びまん延を防止していくためには、平時から行政機関や医療機関等関係者が一体となった取組を行い、PDCAサイクルに基づく改善を図っていく必要がある。

<様式2>

2026年度　施策評価シート（2025年度実績）

1 評価施策名

担当部課室	医薬安全課

重点戦略	Ⅳ 安心で豊かさが実感できる地域の創造
戦略プログラム	保健医療充実プログラム
施策名	【推進】療養生活の質の向上

2 生き活き指標（推進施策の指標）の進捗（達成）状況

指標名	緩和ケア研修終了医師等数	年度	2025	2026	2027	2028
		目標値	3,789	3,969	4,149	4,329
現況値	3,429人	実績値	3,938			
目標値	4,329人	達成率(%)	141.4			
備考	達成率は現況値からの増加数で算出	達成度	5			

指標名	難病相談・支援センター利用者数	年度	2025	2026	2027	2028
		目標値	700	710	720	730
現況値	677人/年	実績値	641			
目標値	730人/年	達成率(%)	91.6			
備考		達成度	3			

3 関連する事業名

・難病特別対策推進事業
・緩和ケア推進事業
・がん患者及び家族の生活の質（QOL）維持向上支援事業
・アピアランスケア等のがん支援体制強化事業
・脳卒中・心臓病等総合支援センター事業

4 施策達成レベル

4.0	生き活き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して 施策達成レベルを算出

5 施策推進による主な成果

・各がん診療連携拠点病院が開催する緩和ケア研修会に加え、各拠点病院の研修に参加できなかった医師等を対象に県主催で研修を実施することにより、がん患者に適切に緩和ケアが提供できる体制の強化を図った。
・難病のある人や家族からの療養・就労に関する相談への対応、入院施設の確保、在宅難病患者のレスパイト入院事業等を行うことにより、難病のある人の療養生活の質の向上を図った。

6 今後の施策推進に向けての課題

・引き続き、医師等の研修受講を促進する必要があることから、各がん診療連携拠点病院を通じて、院内外を問わずより多くの医師等に研修への参加を促すよう働きかける必要がある。また、県主催の研修会を開催し、各拠点病院での研修を受講できなかった医師等の受講機会を提供する必要がある。
・指定難病の対象疾病の追加や多様化する患者・家族のニーズを踏まえ、引き続き個々の状況に応じたきめ細かな支援を行う必要がある。難病診療連携拠点病院、協力病院、準協力病院による難病医療提供体制の充実を図るとともに、医療従事者向け研修等を通じ、難病の早期診断等につなげていく必要がある。

＜様式2＞

2026年度　施策評価シート（2025年度実績）

1 評価施策名

		担当部課室	医薬安全課
重点戦略	Ⅳ 安心で豊かさが実感できる地域の創造		
戦略プログラム	保健医療充実プログラム		
施策名	【推進】命を救う助け合いの推進		

2 生き活き指標（推進施策の指標）の進捗（達成）状況

指標名	若年層の献血率	年度	2025	2026	2027	2028
		目標値	5.92	6.18	6.44	6.70
現況値	5.30%	実績値	5.1			
目標値	6.70%	達成率（%）	86.1			
備考		達成度	3			

3 関連する事業名

・献血推進事業
・骨髄・末梢血幹細胞移植ドナー支援事業

4 施策達成レベル

3.0	生き活き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して 施策達成レベルを算出

5 施策推進による主な成果

・小学5～6年生を対象とした「キッズ献血」や「献血サマースクール」の開催、高校生及び大学生を対象とした血液セミナー（Web講座を含む）の実施など、関係機関等との連携のもと献血知識の普及に努めた。
・骨髄・末梢血幹細胞移植ドナー支援事業は、6市で活用された。

6 今後の施策推進に向けての課題

・将来にわたり安定的に献血者を確保するため、献血の必要性や、「痛そう・怖い」といった不安の解消に関する情報について、SNSなどの若年層に訴求しやすい媒体を活用した啓発活動の充実が必要である。
・骨髄等を提供しやすい環境づくりを継続していくとともに、骨髄バンクへの登録等に係る啓発や移植医療への理解を深めるための取組を推進する必要がある。